

第1学年における探究活動

【活動のねらい】

探究のプロセスを一通り体験することを通して、探究の「型」を習得する。

【活動内容】

教員が提示した領域において、各班で探究する課題を設定させ、探究のプロセスを一通り経験させる。

【取組の概要】

○ 取組の大まかな流れ

- ①課題の設定：担当教諭が指導しやすい領域をいくつか提示し、その領域に関わる課題を設定させる。興味のある領域で班分けし、班の中で協議しながら「問い」を立てさせる。
- ②設定課題についての面接：各班で設定した課題についてのプレゼンテーションを行わせ、複数の教員で面接を実施する。面接でのやりとりを踏まえて、探究計画書を作成させる。
- ③観察、実験、調査等の実施：班で協力させながら、設定した課題を解決するための観察、実験、調査などの探究活動を行わせる。
- ④探究成果交流会：互いの探究活動の成果について交流を行い、コミュニケーション能力の向上を図る。

※生徒の興味・関心の領域にばらつきがある場合は、各班の人数が均等になることよりも、生徒の興味・関心に近い題材で探究できるように配慮する。

○ 面接における主な観点

- ①「仮説」は何か。
- ②「何が」「どうだったら」その仮説は検証できると考えているか。
- ③仮説の検証のために、必要になるものは何か。それらは手に入れることができるか。
- ④仮説の検証のために、必要になる能力は何か。それらは身に付けることができるか。
- ⑤役割分担はどのように考えているか。

○ 提示する領域の例

- ・生命倫理
 - ・方言
 - ・運動生理
 - ・社会的ジレンマ
 - ・岩石
- ※生徒が自主的にテーマを決定したという実感がもてるよう、領域は可能な限り広いものを提示した方がよい。

【指導上の留意点】

- 課題の設定に当たっては、探究するための課題になるように考えさせる。「調べる」課題ではなく、「追究する」課題となるように適宜支援する。
- 面接に当たっては、「なぜこのような課題にしたのか」、「どのようにして課題の解決を進めようと考えているのか」を明確に指導担当教員に説明できるように準備させる。
- 面接においては、教員が「それなら〇〇した方がよい」と答えを与えてしまうのではなく「△△という視点から考えたらどうだろう」というように、生徒自身が考える上での支援を行うよう心がけ、対話の中では可能な限り生徒からの言葉を待つようにする。
- 探究活動の際には、教員は静かに観察するのではなく、「今何をしているのか」、「何のためにその活動をしているのか」を軸として、様々な対話を行い、生徒たちが自分自身の活動を振り返ることができるよう促す。
- 交流会では、生徒が自分たちの考えを分かりやすく伝えることに重点を置く。